

# 令和7年度 学校評価(中間評価)分析

令和7年11月20日  
呉あそか幼稚園

## 1 アンケート結果および考察と改善点

### ① 健康な心と体・自立心

#### <評価内容>

満3・年少 通園を楽しみにしている  
年中 進んで通園している  
年長 進んで通園している

<結果> (人)

#### 考察

肯定的な評価が高い。年齢を考えると親と離れたくないと思う日もあるだろうが、概ね園生活に馴染んでいると思われる。

思う	少し思う	あまり 思わない	思わない
79	19	4	0

#### 取り組みと改善策

子ども達の興味があることや楽しいことを担任が把握して保育に取り入れる。家庭との連携を図り、一人一人の思いを受け止めながら、無理なく通園できるようにしていく。「やさしさあふれる」園となるように努める。

### ② 運動あそび・運動への意欲・達成感

#### <評価内容>

満3・年少 遊んだり、体を動かしたりすることを楽しんでいる  
年中 友だちと遊んだり、運動したりして楽しんでいる  
年長 友だちと遊んだり、いろいろな運動に挑戦している

<結果> (人)

#### 考察

肯定的な評価が高い。ほとんどの子どもが遊びや体を動かすことを楽しんでいる。

思う	少し思う	あまり 思わない	思わない
96	6	0	0

#### 取り組みと改善策

遊びに運動要素を取り入れ、室内での運動も積極的に行った。また、各クラスの工夫した保育方法や成果を共有している。1学期は熱中症対策のため、室内での活動が多かったが、過ごしやすい気候になってきたので、さらに外遊びの工夫もしていく。

### ③ 感受性・自己表現

#### <評価内容>

満3・年少 歌をうたったり、踊ったりして音楽を楽しんでいる  
 年中 歌をうたったり、楽器をならしたりして音楽を楽しんでいる  
 年長 歌をうたったり、楽器をならしたりして音楽を楽しんでいる

<結果> (人)

#### 考察

肯定的な評価が高い。うたったり、踊ったり音楽に親しんでいる子どもが多い。

思う	少し思う	あまり 思わない	思わない
89	13	0	0

#### 取り組みと改善策

音楽教室の講師から指導方法を学び、保育に取り入れた。1学期は主にリズム、表現、音の強弱など指導を行い、2学期からはどの子どもにもいろいろな楽器に触れさせていくことで興味を広げていきたい。

### ④ 社会性・人との関わり

#### <評価内容>

満3・年少 挨拶をされると返すことができる  
 年中 自分から挨拶ができる  
 年長 自分から丁寧な挨拶ができる

<結果> (人)

#### 考察

子どもの年齢、性格や環境によって差が見られる。年長は評価内容に「自分から」「丁寧な」と高度になるので、肯定的な評価が低く  
 なると思われる。

思う	少し思う	あまり 思わない	思わない
32	54	13	2

無回答 1名

#### 取り組みと改善策

保育教諭が率先して挨拶をする姿を見せていった。絵本やごっこ遊びで挨拶を取り入れたり、子どもたちに声をかけ、挨拶ができるような場面を設けたりしていく。挨拶名人を見つけ、クラスの手本となってもらい、クラス全体に意欲を持たせる。また家庭での取り組みも大切なので、保護者にも協力をしていただく。次年度は「丁寧な挨拶ができる」に具体的な姿を示す予定である。

## ⑤ 心の安定・探究心

### <評価内容>

満3・年少 絵本などを見て楽しんでいる  
年中 絵本や図鑑に親しみ、少しずつ興味が広がっている  
年長 進んで絵本や図鑑を見て、いろいろな興味が広がっている

### <結果> (人)

#### 考察

絵本を読み、楽しんでいる子どもが多い。学年によつての差はほとんどない。ただ、興味が広がったかどうかは、まだわからない。

思う	少し思う	あまり 思わない	思わない
79	22	1	0

#### 取り組みと改善策

毎日の担任による読み聞かせの他に、毎月保護者による読み聞かせを行ってもらっている。また週に一回、絵本コーナーに行き、好きな絵本や図鑑を選び、読んでいる。様々な本を紹介して興味を広げるとともに、子どもたちが「読んでみたい」と思えるような絵本コーナー作りを今後も続けていく。

## 2 評価委員からの助言・意見(10月21日学校評価委員会にて)

- ・3年程度の中期的な取り組み期間を設定して、評価⇒改善を繰り返し、重点目標の達成を目指していければと考える。
- ・発育・発達段階を考慮した評価項目の設定、評価時における評価者の認識や判断のズレの解消等の改善が図られてきている。
- ・保護者が子どもの園での様子をイメージできているのかどうか、実践や子どもの姿を伝えてくれば、アンケートの正確性や答えやすさにつながるのではないかと。
- ・最終的にどのような挨拶を目指しているのかを知り、共有することも必要だと思う。そして保護者と先生がそのお手本になって見せていきたい。
- ・先生方が意欲的に、また子ども達に期待や“もっとできる”という思いを持って関わっていると知ってうれしい。
- ・④の挨拶の項目で年長組は「丁寧な挨拶」となっているが、具体例の提示などが説明してあるとわかりやすく、同じ視点で評価しやすい。
- ・園や先生がいろいろなことを考え、子ども達のことを思って、日々関わって下さっていると知り、親は親で取り組めることをしっかりやって子どもを成長させたい。